

展示遺跡の紹介

鎌手遺跡

日田市大山町

大山川左岸の河岸段丘上に位置する縄文後期後半の遺跡。調査区周囲の集落から捨てられたと思われる多くの土器等が堆積した遺物包含層が確認されている。三万田式から鳥井原式を中心とした磨消縄文や黒色磨研の鉢などのほか、土偶やトトロ石器なども見つかり、周辺に地域の中心的拠点があったと想像される。



調査区全景



出土状況

出口遺跡

日田市天瀬町

大山川支流の出口谷川の小さな谷間の河岸段丘上に位置する縄文後期前半の遺跡。瀬戸内地方系の磨消縄文の土器のほか、中九州地域の特徴を持つ土器様式が混在するという特徴がある。



土坑

中川原遺跡

日田市大山町

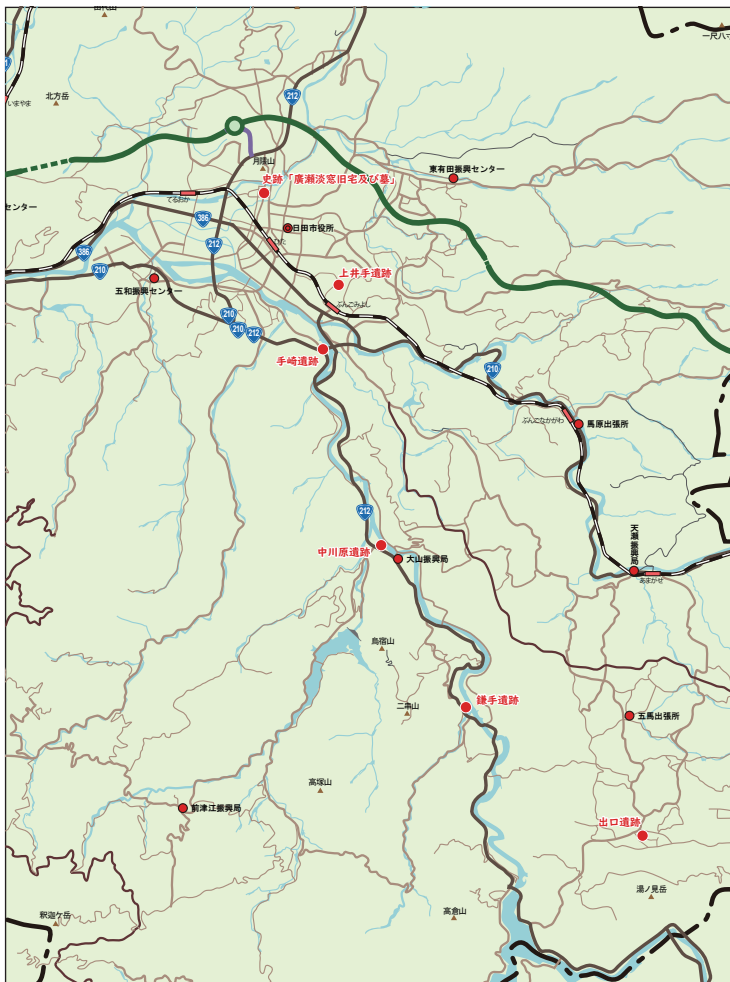
大山川とその支流赤石川の合流点付近の沖積地上に位置する縄文後期中頃の遺跡。花卉状の石組炉を持つ方形の竪穴住居跡が確認されている。爪型文様を施す御手洗A式や磨消縄文の小池原上層式などが出土し、漁撈に使用された石錘が多数出土したほか、鋸歯鏃などが出土している。



住居跡



石組炉



展示遺跡位置図

時代	時期区分	年代	日本の出来事	日田の出来事	日田の遺跡	主要な遺跡
旧石器時代	—	約35,000年前～約16,000年前	細石器の仕様が始まる。	亀石山遺跡が狩場の一大拠点となる。	亀石山遺跡 平草遺跡	
縄文時代 (JOMON)	草創期	約13,000年前	土器・弓矢の仕様が始まる。	槍先型尖頭器や三角鏃がつくられる。	亀石山遺跡 平原遺跡	
	早期	約10,000年前	貝塚が形成される。	集石や落とし穴がつくられる。	亀石山遺跡 平原遺跡	
	前期	約6,000年前	気候が暖くなる。	竊B、管煙式土器が使われる。	古座敷遺跡 大肥下河内遺跡	
	中期	約5,000年前	大きな貝塚や集落が形成される。	船元式土器が使われる。	大肥吉竹遺跡 平草遺跡	三内丸山遺跡
	後期	約4,000年前	土偶づくりが盛んになる。	竪穴住居がつくられる。	出口遺跡 中川原遺跡 上井手遺跡 鎌手遺跡	
	晩期	約3,000年前			大肥祝原遺跡	
弥生時代	前期	約2,500年前～約2,300年前	九州北部に来作りが伝来する。中国の史書に日本が登場する。	市内で大陸の影響を受けた集落がつくられる。	徳瀬遺跡	唐古・鏡遺跡
	中期	約2,200年前	奴国王が中国皇帝より金印を授かる。	吹上遺跡で王墓がつくられる。	吹上遺跡	吉野ヶ里遺跡
	後期	約2,000年前	卑弥呼が活躍する。	環濠集落がつくられる。	小迫辻原遺跡	
江戸時代		19世紀	廣瀬淡窓が咸宜園を開く。		史跡咸宜園跡	

歴史年表

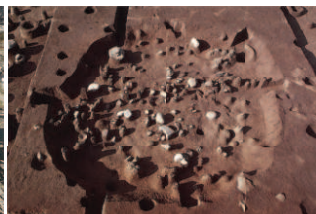
手崎遺跡

日田市大宮町

大山川が玖珠川と合流する地点の小さな河岸段丘上に位置する縄文後期後半の遺跡。竪穴住居や土坑などが確認され、住居跡からは磨消縄文の西平式、土坑からは三万田式などの土器が出土している。そのほか包含層からは上流域の出口遺跡同様に瀬戸内や中九州系の土器が出土し、打製石斧も多数見られる。



調査地点空撮



住居跡

上井手遺跡

日田市刃連町

大山川と玖珠川の合流地点右岸に広がる沖積地に位置する縄文後期後半の遺跡。周囲の集落から捨てられたと思われる多くの土器等が堆積した遺物包含層が確認されている。包含層からは黒色磨研磨の鳥井原式・御領式などの土器のほか、台石や石皿などの加工具や打製石斧が多数出土している。土偶や石棒、石製祭祀具、十字型石器などの祭祀具も見られ、地域の拠点集落であったと想像される。



出土状況



土器出土状況

廣瀬淡窓旧宅

日田市豆田町

日田市豆田町に位置する代表的商家の国指定史跡「廣瀬淡窓旧宅及び墓」の旧宅部分。保存修理に伴う発掘調査で文久4年(1864)の家相図に見られる新座敷の建物礎石列を確認した。



建物礎石列